

国語科

平成27年11月6日(金)

《研究主題》主体性を高める授業過程

《教科テーマ》

学校知と実践知の往還を通して最適解を導く国語科の授業づくり
～実生活につながる批判的思考力を育成するには～

知識基盤社会の到来、グローバル化の進展など、急速に社会が変化する中、今まさに、これまでのような特定の専門領域に限定された知識だけではなく、広い視野に立った柔軟な知識を活用する能力が求められています。それは、実社会・実生活で生きて働く力であり、学びの基盤となる国語科で求める学力と重なる部分が多いのです。そこで、国語科では、客観的知識を、実生活から離れた抽象的な知識としないために、授業過程において、経験を通じた批判的思考、内省ができる場面を必ず設定していきます。さらに、他者との交流を通して、正解を求めるのではなく、その場に応じた自分なりの最適な判断・表現ができるような課題設定、学習材や形態の工夫に取り組んでいきたいと考えています。

《プログラム》

受付
8:30～9:00

全体会
9:00～9:40

移動

公開授業
10:00～10:50

移動

教科協議会Ⅰ
11:10～12:00

昼食・休憩

教科協議会Ⅱ
13:00～14:20

休憩

ワークショップ
14:30～16:00

公開授業

1年A組 授業者 杉山 晃弘
「身近な出来事をとっておきの『ニュース』にしよう」

これまでの経験した出来事の中から、特に印象的なものを取り上げ、自分とは違う立場にいた友達を取材して、その内容を新聞記事にまとめます。友達の間で話題になった出来事や、逆三角形型の文章構成や、見出しに多用される文彩（修辞のレトリック）などを駆使して、読み手を引きつけ、尚且つ内容を正確にわかりやすく伝えられる文章をめざします。このような学習経験を重ねることで、批判的思考力は養われるものと考えます。



教科協議会 「本校国語科の取組と公開授業について」

◇研究協力委員	菊川市立菊川西中学校	教諭	平野 公一
	藤枝市立藤枝中学校	教諭	山田 直子
◇島田市教科等指導員	島田市立島田第二中学校	教諭	古谷 美佳
	島田市立大津小学校	教諭	進士 知秋
◇共同研究者	静岡大学教育学部	准教授	中村 ともえ
		講師	高野 奈未
◇助言者	静岡教育事務所地域支援課	指導主事	鈴木 泉

ワークショップ

◇講師 読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局
保井 隆之 先生

「実社会・実生活で役立つ『書く力』とは」

★申し込みは別紙参加申込書または本校ホームページよりお願いします。

ホームページアドレス <http://fzk.ed.shizuoka.ac.jp/shimachu/>